みんなの県政

1975/1
No. 72 富山

新年のごあいさつ

富山県知事 中田 幸吉

県民のみなさん、明けましておめでとうございます。

希望にみちた新春を迎え、心からお喜び申しあげます。

私は、県民のみなさんから付託されました県政の責任の重大さを痛感するとともに、県民の生活と福祉の向上に一層の努力を傾注する決意であります。

今年は、県民待望の北陸新幹線の着工、北陸自動車道の富山—小杉間の開通、国立富山医科薬科大学の開学などをより一層強力に推進し、本県の産業経済の発展に寄与いたしたいと思います。

昭和五十一年二月には、冬季スポーツの華である「おおやま国体」が「立山に美と力と友情を」をテーマに開催されます。

県民挙げての御協力により成功させたいものと念願いたしております。

私は、知事就任以来愛と繁栄の県政の実現を高く掲げ、一歩一歩着実に推進してまいったところであります。「明るく住みよい富山県」実現のため誠心誠意精進することをお誓いし、県民のみなさんの絶大な御協力と御支援をお願いいたしまして、年頭のごあいさつといたします。

みんなの県政

1975・1・もくじ

富山高岡バイパス……1
ことしの除雪計画……6
ふるさと養護学校……8
ふるさと空から拝見……10
乗ってみました！●県政バス・ふるさとバス……12
国民体育大会の沿革(その４)……15
物価と家計簿……18
みんなの広場……18
くらしの知恵……19
トピックス……20

●表紙せつめい●

専念寺の傘松

この名が特長を示しているように割合低い黒松で、幹の低いところから多くの枝を出し、それが長蛇のように地上近くはいひろがっている。

枝のひろがりは16メートルにおよんでいる。

享保２年(1717)旅の僧が菩提のため植えたものと伝えられている。

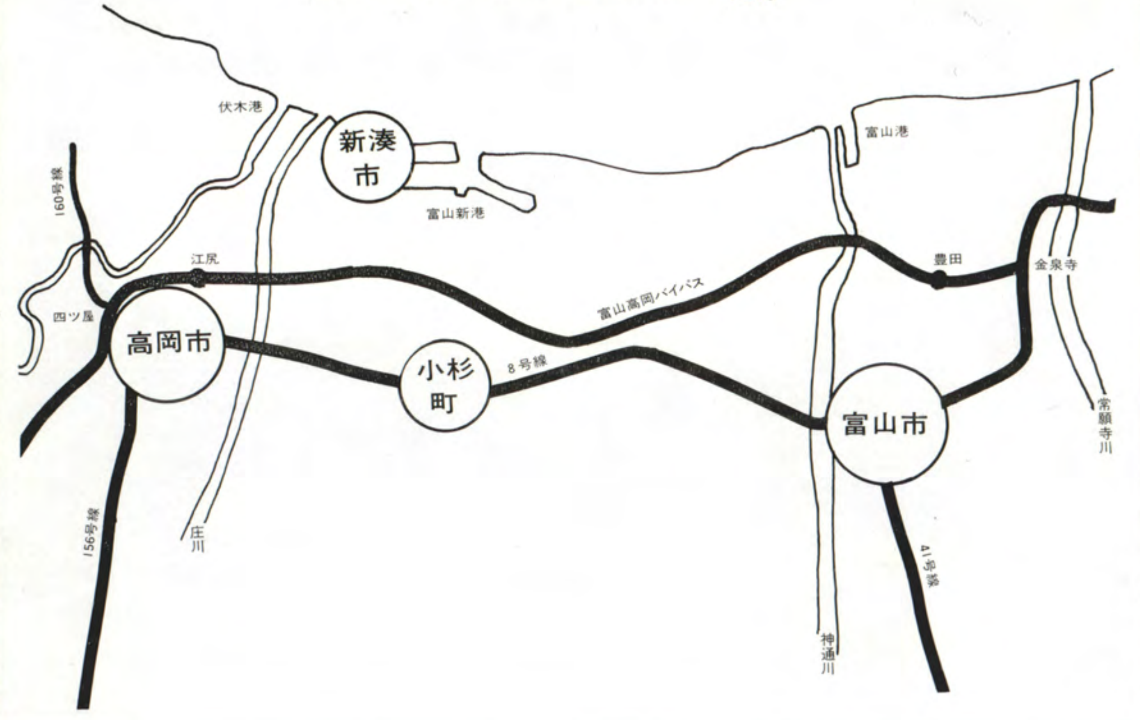
富山県民が待望していた富山市金泉寺—高岡市四ツ屋間二四・八キロの国道八号バイパス全線が開通しました。

バイパスの建設の目的は富山、高岡新産都市計画の一端を担い、交通輸送力の増大と沿線地域開発の促進を図るものです。

このバイパス完成によって富山、高岡間は三〇分から三五分で快走できるようになり現国道八号を走行するより二五分の短縮がはかられます。さらに富山市側は新庄地内から市中にかけての混雑が緩和され高岡市側もこれまでネックとなっていた高伏道路をバイパスがまたぎ四ツ屋へ抜けるようになったため、車の流れがスムーズになりました。

待望の国道8号
富山・高岡バイパスが開通

富山高岡バイパス平面図　1/15万



富山県には五つの一般国道があって、道路ネットワークのかなめを形成しておりますが、そのうちでも特に国道八号は、県内を東西に縦走する大動脈です。

国道八号は、新潟から京都に至る延長五六六キロの元一級国道で、古くから北陸街道の名で親しまれ、新潟地方や関西方面を結ぶ基幹道路として利用されると共に、私たち県民の通勤、通学、買物などの日常生活を支える生活道路としても大きな役割を担ってきました。最近のモータリゼーションの急速な発展に伴い、自動車交通量は増加の一途をたどっています。国道八号も富山市内で一日当り三万台近い交通量となり非常に混雑しているばかりか、交通事故が最も多く発生している状況です。

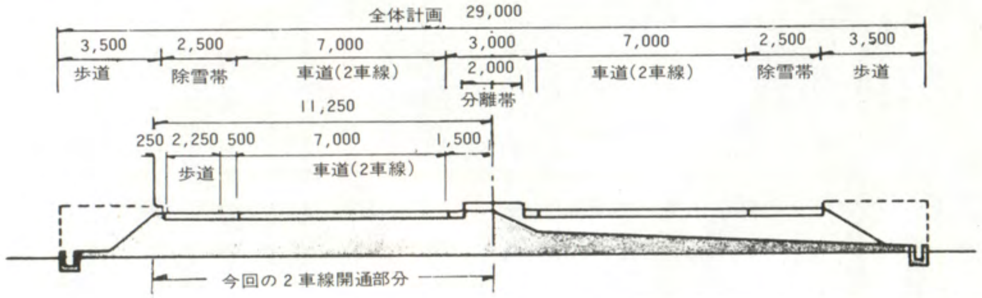
このような交通難を抜本的に打開するため、富山市金泉寺から高岡市四ツ屋までの区間について、延長二四・八キロ、幅四車線のいわゆる富山高岡バイパスが計画されました。

富山高岡バイパスの建設は、用地買収が昭和四二年度から富山県が協力し

富山高岡バイパスの計画概要

起点・終点	富山市金泉寺～高岡市四ツ屋
基準	第三種一級
延長	二四・八キロ
道路幅員	二九・〇メートル（暫定一一・二五メートル）
車線数など	四車線（暫定下り二車線） ほかに分離帯、歩道、除雪帯など
事業費	一五七億円（昭四九年度まで一一四億円）

富山高岡バイパス標準断面図



て始められ、本工事は昭和四十三年度から建設省によって着工されました。

工事施工方法としては段階施工方式が採用され、また全線を一日も早く開通させるため、前期計画として、全体四車線のうち暫定的に片側二車線部分（下り線）のみが先行施工されました。

昭和四十六年四月には鏡宮～江尻間五・三キロメートルの部分開通を手始めに、昭和四十七年十一月と十二月には稲積～鏡宮間二・六キロメートルと豊田～小白石間一〇・〇キロメートルが順次供用開始され、更に、昭和四十八年七月には小白石～稲積間二・一キロメートルが開通し、実質的に富山～高岡を結ぶようになったためバイパスを利用する事が多くなり交通量がいっきょに三、〇〇〇台～五、〇〇〇台も増え、その分だけ現八号や魚津氷見線などの交通がスムーズに流れて、富山市、新湊市、小杉町、高岡市などの交通渋滞緩和に大変役立つことになりました。

昭和四十九年十二月十七日に、待望の富山市金泉寺から高岡市四ツ屋までの全線二四・八キロメートルが二車線で開通しました。

そして、富山高岡バイパスは、次のような大きな役割を発揮しています。

(1) 富山市や高岡市に用事のない車がバイパスを通過することにより交通の流れが分散するため、富山高岡周辺の交通渋滞が大変緩和されるようになりました。

(2) 富山高岡バイパスは、射水平野の田園地帯を走る幅の広い道路で、主要な道路と立体交差することから市街地を通っている現八号に比較して約二五分の時間短縮が可能になりました。

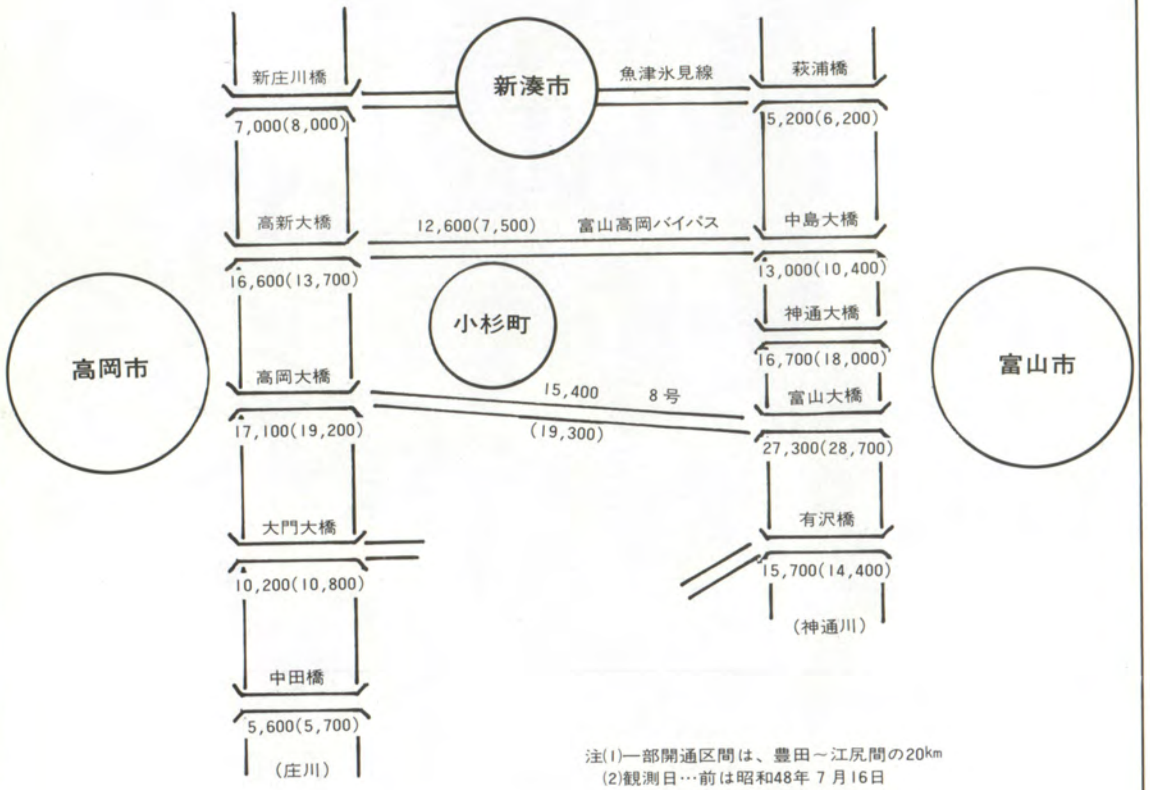
(3) 道路構造の面からは、歩道、車道、除雪帯、バス停車帯、交差点処理などについて安全性が高く雪に強い設計になっています。

(4) 富山新港工業地帯を中心とする富山高岡新産業都市圏の輸送量増大に対応できるようになりました。

(5) バイパス沿道地域の有効な開発を助けています。

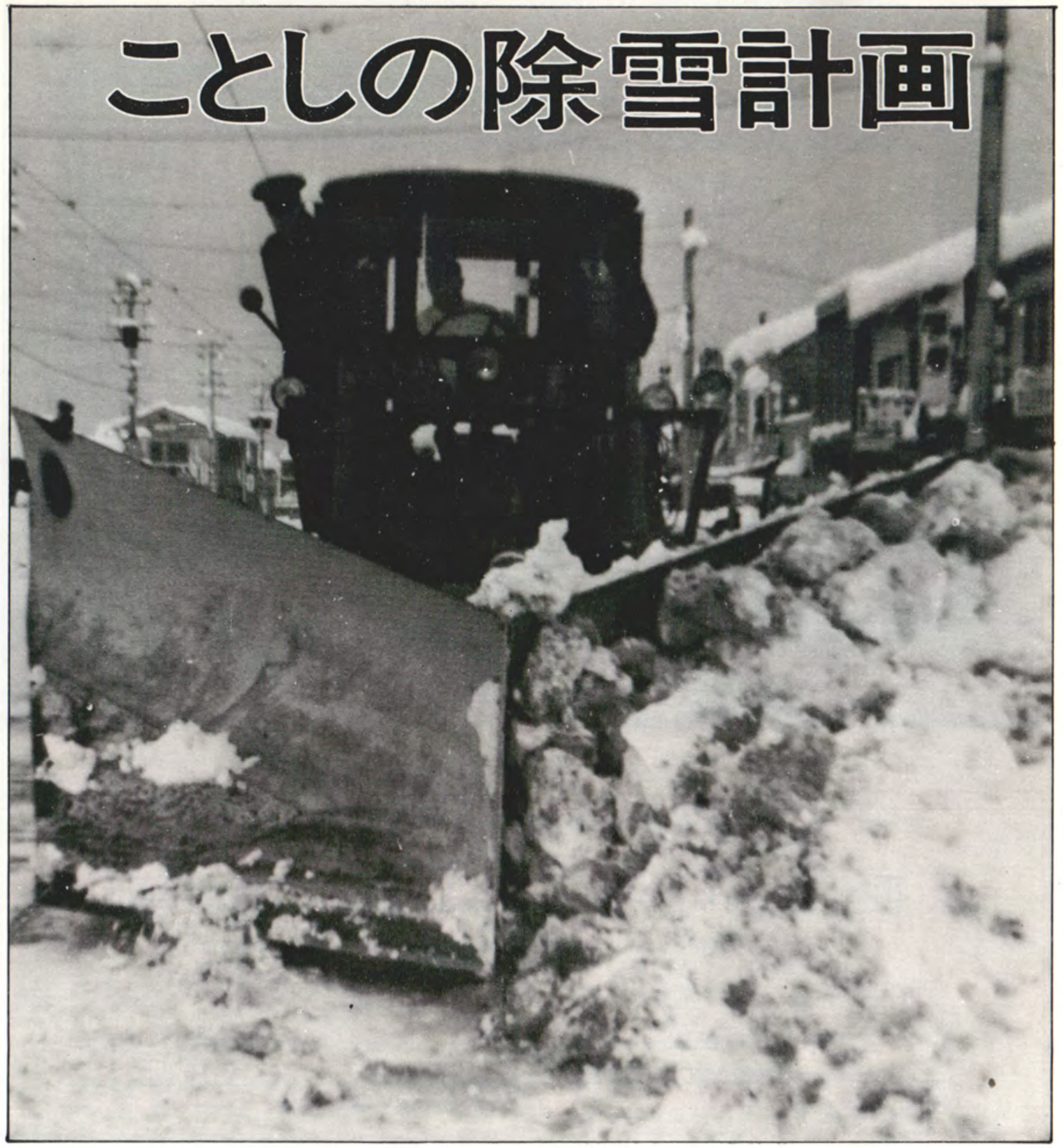
富山高岡バイパスは、昭和四十一年着手以来九年間の歳月と一一四億円の事業費を投じて、一応暫定二車線で二四・八キロメートルの全線開通をみ、富山高岡圏の交通緩和と地域開発に大きな役割を果すようになりましたが、今後は引続き四車線全部の早期完成をめざして、建設工事が進められることになっています。

富山高岡バイパスの一部開通前と後の交通量変化



注(1)一部開通区間は、豊田～江尻間の20km
(2)観測日…前は昭和48年 7月16日
後は昭和48年 8月22日
(3)交通量…(　)内は一部開通前のもの

ことしの除雪計画



この冬は、去年より六日早く県内の山間部を始め平野部の一部にも初雪をみました。下新川郡の一部では除雪車も出動しました。

去年は、前、前々年に比べて降雪が多かったのですが、ことしの冬も周期的な寒波の襲来が予想されます。冬将軍を迎えるため、除雪機械のウォーミング・アップも終りました。

道路の整備が進むとともに、自動車輸送による産業活動も広域化されて、県民の皆さんの生活様態も大いに変って来ました。通勤・通学等その範囲も拡大されて、生産活動を含めて民生の安定を図る上からも、除雪による交通確保が重要な課題となっています。

道路の無雪化のため、現在、ロード・ヒーティング、消融雪パイプの敷設などの道路が県内各地に増えています。この種の施設は、電力、地下水などの利用によらねばならないので、資源的にも限界があったり、工事費、維持管理費が高つくなど、普及にはまだまだ問題がありそうです。一方、他の消融雪装置にしてもいろいろと必要条件があって、県内すみずみまで普及というわけには行かず、生活に密着した道路は、可能なかぎり除雪機械にたよらざるを得ないわけです。

県の道路除雪計画は、県下の除雪延長を、去年より八二・二キロ増やし、機械力、すなわち除雪用グレーダーや、除雪トラックなどを強化しています。

除雪計画道路は、県の管理道路の七八・一㌫を計画しています。

除雪の目標として、隣県にも関係ある国道、道路を主体に、県内の主要幹線市町村道との連絡道路、物資の輸送、民生の安定のための重要な路線などについて、交通量、道路状況などを考えて策定されています。

具体的には、一日一、〇〇〇台以上の交通量のある道路については二車線以上の幅員確保が出来るように計画されています。また、県下五カ所の観測点で豪雪基準に達したときの異常時でも降雪から五日以内には二車線を確保することにしています。

一日五〇〇台から一、〇〇〇台の交通量のある道路についても、二車線の幅員確保を原則にしますが、状況によっては、一車線として、ところどころに待避所を設けるなど、交通の安全を図って行く考えです。

このため十二月一日から三月三十一日まで県に除雪対策本部をおき、市町村や民間の協力を得るとともに、気象台などと密接な連絡をとりながら除雪対策を進めていきます。

さらに、スノーポールの設置、運搬排雪の迅速化、除雪ステーション、除雪パトロールなどを駆使して、有効適切な活動を進めます。

除雪作業にご協力を

除雪の効果的運営を図るため、次のことをお願いします。

○ 市街地や人家の除雪は、交通上はもちろん治安、消防上からも極めて重要です。ただし、屋根の雪おろしの後始末が不十分ですと、除雪機械や消防車の運行を不能にするので、後始末の励行に組織的な協力をして下さい。

○ 路上駐車や障害物の路上放置は、雪がかぶるとわかりにくくなり、除雪機械などのさまたげになり、車も損傷しますので、車庫や適当な空地に置いて下さい。

○ 側溝や沿道用水などは、流雪溝として活用されるので、計画的排雪を考えて下さい。

○ 歩道の除雪は、残念ながら良いものが開発されておらず、機械除雪は出来ないので、県民皆さんのご協力をお願いします。

県立（病弱教育）ふるさと養護学校

ふるさと養護学校は
病気で学校へゆけずに病院へ入院している子供たちに、療養しながら勉強していただく施設です。

とかく
病気の子どもは、過保護に育てられ、学校も休みがちとなります。

そのため
病気の回復や、学習進度のおくれが、目立ってきます。

このようなことから
心理的なあせりや、情緒不安が生じ、暗いイメージをもつ子どもになってしまいます。

そこで
この学校では、隣接の国立富山病院と一体となって同病院に入院治療をしている小・中学生に対して、規則正しい生活と学習をさせ、それぞれの病気の克服につとめています。

今では
みんな明るい笑顔をとりもどし、たのしい充実した毎日をおくっています。

なお小児慢性疾患には
ぜんそく、心臓病、腎臓病、ネフローゼ、リューマチ熱、血友病、呼吸器疾患等があります。

在校生の学校行事の体験

5年　TM児

今年の夏休みは、家族とはなれ、病気を持つ友達といっしょに療養しながらおくりました。行事の前や最中に発作が起きて、大へん残念なこともありましたが、初めて経験したこともあって、楽しい思いをしました。

その中でも、僕を元気づけ、うきうきさせてくれたものは、二か月ぶりにできた二泊三日の帰省。生まれて初めて味わった野外料理と、キャンプファイヤーのサマースクール。病気やいやなことを忘れさせてくれた人形劇。思いきり笑ったゆかいな映写会などでした。

とくに、サマースクールは、夏休みに入る前から楽しみにしてきた一つでした。いよいよ本番のとき、自分たちが作った料理を食べあったり、夜、火をかこんで歌を歌ったり、フォークダンスをおどったりしたことは、今も、目にあざやかにうつり、とってもたのしい夏休みでした。

1日の生活

時刻		病院 ベット	病院 学習室	学校 教室
AM 6:00	病院			
7:00	病院	起床・洗面・朝食		
8:00	病院	安静・検温・登校準備		
9:00	学校	学習準備	学習準備	朝礼・健康観察
10:00	学校	安静	第1限—第3限	第1限—第3限
11:00	学校	第2限—第3限		
12:00	学校（病室）	昼食		
PM 1:00	学校（病室）	第4限	第4限—第5限	第4限—第6限
2:00	学校（病室）	安静・検温		
3:00	学校（病室）	安静・検温	安静・検温	クラブ活動
				そうじ・終礼
4:00	病院	夕食		
5:00	病院	検温・自由時間		
6:00	病院			
7:00	病院			
8:00	病院	学習時間		
9:00	病院	就寝・消灯		

※指定された小児慢性疾患のお子さんは、入院費、食費は全額無料です。なお食事は、病種によって病院の栄養士が献立し、食堂で給食をします。

教育内容

普通の小学校・中学校に準じた教育を実施します。

健康を保つために必要な知識・技能・態度および習慣の育成につとめます。

病気を克服し、明るく生きる強い意志の育成をはかります。

学校の教員

普通小学校・中学校の教育経験の豊かな教師が配置されています。

全快した場合

もとの学校に復帰できることが原則です。
（現在中学生一名、小学生二名が復帰しています）

この学校で小学校・中学校課程の卒業もできます。

父兄の声（ぜんそくの子をもって）

中一　父兄

寝静まった夜、まだ小さな何もわからないこの子が、毎夜のごとく息苦しくせき込むのを、どうしてやることもできず、ただ「早く静かにおさまりますように」と祈りながら何年眺めて来たことだろう。

小学校へ行くようになってからも、毎夜続く発作のため、友達が学校に行く頃には、疲れ切ってぐっすり寝てしまう。「先生、今日も休ませて下さい……と」。一年間に、何日登校したことだろう。

そのうちにだんだん友達の楽しそうな登下校の様子を家の中で眺めていたこの子は、心なしか一日一日暗く沈んでいくような気がしてきた。私達家族のものは「何とかしてやらなければ」と、あせり出し、いろいろと手をつくしました。

四月から、医療を受けながら学習が出来る学校が新設されると聞いて、すぐ申し込みました。入院入学の許可をもらった時のうれしさは言語につくせません。

病院の先生、看護婦さん、学校の先生方のていねいな御指導のお蔭で、今では日一日と病状もよくなり、時折おこる発作にも、ある程度打ち勝つ自信を持ったこの子を見るにつけ、家族共々明るさをとりもどし希望に胸ふくらませております。

これからも、看護婦さんや先生方に御迷惑をかけることと思いますが、ただ、全快するまでよろしくたのみますと頭を下げるばかりです。

ふるさと

——空から拝見

富山市

富山平野のほぼ中心に位置する富山市——。

東西に国道八号線が走り、南北に四十一号線が伸び、まちなみがつづき、みどりの田園が広がっている。その中をぬって、神通川・常願寺川の二大河川がゆったりと富山湾にそそいでいる。

豊かな水が土地をうるおし、工業を起こし、古くから北陸の中核都市として、産業・経済に大きな発展をとげている。さらに、観光都市をめざし、呉羽山・城山一帯の開発と、立山・黒部観光ルート基地〝富山〟のイメージづくりがすすめられている。

昨年末には国道八号線バイパスが開通し、待望の北陸自動車道の建設も急ピッチですすめられており、開けゆく日本海時代にそなえ、いま、北陸新幹線の早期着工、医科薬科大学の誘致に大きな期待が寄せられている。

乗ってみました！

県政バス●ふるさとバス

「今後もぜひ参加したい」「コースによっては参加したい」とする方々が参加者全体の九七・五パーセント。内容についても「実によかった」「まあまあだった」と乗車の感想を肯定する人が参加者全体の九七・五パーセント。

これが、県政バス・ふるさとバス教室開催に伴う総まとめです……。

本年も、木々の若芽が息づく四月から、秋の日ざしに紅葉が真赤に映える一〇月まで、県政バス一一四台、ふるさとバス三四台計一四八台を運行し、大勢の方々にご利用いただきましたが、その様子を誌上で紹介いたしましょう。

★申込み満員 うれしい悲鳴
＝県政バス教室＝

県政バス教室は、県民の方々に県、その他の公共施設を見学してもらい、県政についての正しい理解と関心をもってもらうとともに、県政に対する意見、要望などをお聴きするためにはじめたもので、今年で五年目になります。当初は、運行台数もすくなく、年間六台ぐらいでしたが、皆様方の好評に支えられ、逐年運行台数の増加を見てまいりました。しかし、いまだに申込んでも満員で利用出来ないという苦情もえず、関係者一同うれしい悲鳴をあげております。

乗車される方々は、全般的にご婦人、ご老人が多いのですが、こうした片寄りを防ぐため、本年はとくに夏休み期間を「親子バス教室」と「小中学生バス教室」を開催しました。次代をになう子供たちやお母さんたちから、「勉強になった」とか「親子で対話の時をもてて楽しかった」という喜びの声がとどいています。

今後もバス教室に参加したいか	ぜひ参加したい	コースによっては参加したい	参加したくない	回答なし
	45.8%	51.7%	1.6%	0.9%
バス教室のコースはどうであったか	実によかった	まあまあだった	期待はずれだった	回答なし
	76.3%	21.6%	0.8%	1.3%

施設では、係員がわかりやすくていねいに説明します

★社会福祉に高い関心

「見学して施設がととのい思ったより明るい感じで安心した」

「社会復帰を願って努力している姿が印象的であった」

など、みなさんは、老人ホームや高志学園などの社会福祉施設が最も印象的であったとしています。一方子供たちは、

「本が多く、近代的である」

「精密な機械が沢山あって、一生懸命働いている姿が印象的であった」

「知事と写真がとれてよかった」など、図書館、公害センター、県庁の感想を述べています。

このように、〝百聞一見にしかず〟、実際に税金の使途や県勢の発展を目にして、非常によくわかり県政を身近かに感じたとする評価が圧倒的で、所期の目的を十分達し得たと、喜んでおります。

みなさんのご要望に呼応して、更に充実して行きたいと考えております。

★楽しい郷土の再発見
＝ふるさとバス教室＝

ふるさとバス教室は、昨年富山県ができて九〇年になるのを記念して、はじめたものです。県内の豊かな自然や貴重な文化財を県民のみなさんに紹介することを通じて、郷土の再認識をはかり、みんながその発展の歴史と先達の気概や努力を思い起し、力をあわせて置県一〇〇年にむかって一段と飛躍されることを願っています。

従って、このバス教室のコースは、四季折々、県内で最も美しい所や重要文化財のある場所へ案内するよう設定してあります。

★ある日の同乗記

○月○日、春まだきブナ坂にバスを

県知事と記念撮影はよい想い出に

すすめ、探鳥会を開催しました。

バス道路だけが除雪され、あたりはまだスッポリ雪の中にとざされています。木々のつぼみも固く、すくないエサを求めて飛び交う小鳥の鳴声が、つめたい風にまじって、さやかに聞こえます。

オオルリ、ウグイス、ヒガラ、コガラ、ツツドリ……など。

指導員から、その鳴声と鳥の名前をおそわりながら、ゆっくり雪渓の上を渡ります。足元から寒気がしのびよるが、かわいい鳴声と可憐な容姿は私達の心をとらえてはなさない。息づく自然の中にあって、砂ぼこりをあげるバス道路だけが、冷酷で無表情に見えたのが印象的であった。

★アンケート・直接県政に

県政バスの運行には、県政について理解を求めることと県民の声を聴くという二つの目的があると述べました。今まで前者についてご紹介しましたが、後者については、次のように実施しました。

バス教室参加者全員にアンケート調査を行い、県政へのご意見、ご要望を記入していただきました。その結果を集計、分類して担当各部課と打合せを行い、みなさんのご意見やご要望が、県政に反映するよう積極的な連絡調整を行いました。その事例を二、三ご紹介しましょう。

九月一八日乗車の富山市内の或るご婦人の方から、清水町一丁目と旭町の交差点に信号機を設置するよう要望がありました。さっそく担当の警察本部交通企画課に連絡し、検討してもらった結果、明春一月に設置する目途がつきました。また、八月二一日乗車の小学校の子供さんから、学校前をダンプカーが沢山通るので勉強が出来ないという訴えがありまして調査しましたが、適当な回路がなくダンプカー等の通行禁止等の規制ができませんでしたが、当該地点の信号機の設置や速度制限、指導取締りの強化等を行うように措置しました。

このほか、社会福祉の充実や道路の整備、生涯教育の推進などに関する沢山のご要望やご意見をいただいております。県としましては、これらを政策決定の場に活かして、実現出来るものから実施したいと努力しています。

★あなたもどうぞ

以上のとおり本年度のバス教室は終了しましたが、なお、みなさん方から「県政バスでも神社、仏閣の見学をしたい」「小学生以下の同伴を遠慮するよう」「子供のふるさとバスがあればよい」などのご要望もあり、更に検討して行きたいと考えております。

そして、あなたと県政をむすび、よいご意見、ご要望をいただいて、更に県政繁栄の糧として展開してまいりたいと思います。

来年は、あなたも是非ご利用ください。

国民体育大会の沿革（その4）

冬季「おおやま国体」をみんなの力で成功させよう

「立山に美と力と友情と」

モデル国体「富山」民泊の真心に深い感銘

第十三回国体は、昭和三十三年に富山県で開催。聖火は富山の象徴「立山」の頂上で引火。十月四日大会旗が前年大会県静岡を出発する頃は、富山県内の国体受入れは、殆んど完了。県民の国体意識は次第に燃えてきたのであります。

十月十一日猪谷橋で岐阜県から引き継がれた大会旗は、各市町村選りすぐりの若者、延一四、七五〇人が九日間にわたって、県下隈なくリレーされたのであります。国体一色に塗りつぶされ、世にいう「モデル国体」、「民泊国体」、「誠意の国体」は、この間に深く根をおろしていたのであります。

第十一回から、国体は「地方持ち回り」という原則にたっており、既存の施設をじゅうぶんに活用したモデル国体「富山国体」は、十月十九日から二十三日までの五日間、天皇、皇后両陛下、高松宮殿下をお迎えして、全国の代表が熱戦を繰りひろげたのであります。

この大会で全国的な反響を呼んだのは、何といっても「民泊」でしょう。その昔、兵隊さんたちが地方へ出て演習をするときに、その演習近くの民家が自発的に宿を提供したように、真心のこもった県民の暖かい「民泊」協力には、選手や役員達が、心休まる憶いと、明日への鋭気が養なわれるとあって、たいへん喜ばれ、深い感銘を与え、「誠意の国体」ともいわれ、実に大きな成果をおさめたのであります。

また、大会当日は、大会の華、マスゲームも、日本民謡「おわら」の一糸乱れぬ優雅な踊りの展開を中心に、小学生、中学生、高校生、婦人などが、工夫をこらした演技を披露したのであります。

ブラジル在留邦人選手団も初参加しての選手、役員団の堂々の入場。富山県代表スポーツマンに護られて大会旗が、続いて立山ゆかりの聖火を捧持した岩川県体協副会長が、ファンファーレの響きわたる中をひた走り、聖火台に火は移されたのであります。

時々の雨ふる中を　若人の
足なみをそろえ　すすむおおしさ

天皇陛下の御歌にもあるように、聖火が赤々と燃える県内は、全日程快晴とはいえなかったが、全国の精鋭は、連日熱戦を県下各地で繰り広げ、県民の熱狂的声援と、暖かい情愛の中で着々と進められたのであります。

また、その前九月十四日から四日間、高岡市民プールで開催された夏季大会においても同様、県民一丸となっての協力とその成果は、いまも国体関係者の中で高く評価され、受け継がれているのであります。

さあ!! おおやま国体も

この感激が、思い出が、いままたすぐそこまでやってきました。

昭和五十一年二月、第三十一回国民体育大会冬季大会スキー競技会、題して「おおやま国体」が、大山町の極楽坂、粟巣野両スキー場で開催されるのです。この国体で、夏、秋、冬が全部終了することになりますが、もう一度あの感激を再現すべく、県民挙ってこの冬季大会を「立山に美と力と友情と」のテーマにある通り、成功させようではありませんか。

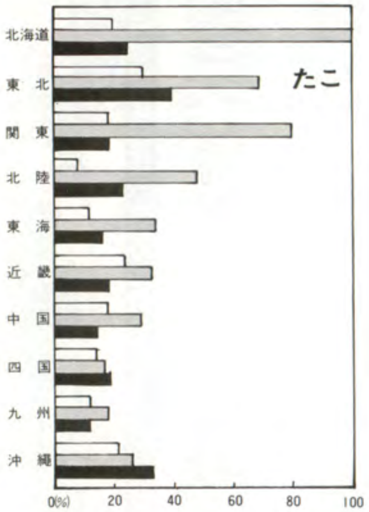
「おおやま国体」は昭和51年2月

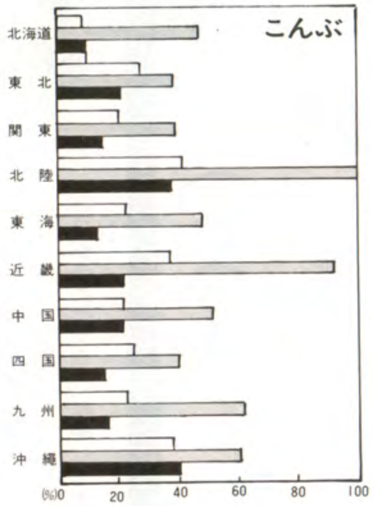
正月食品の地域的特色

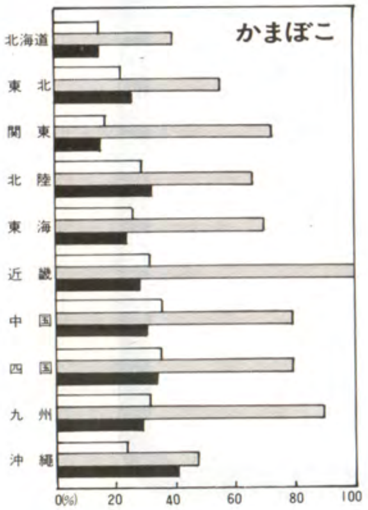
支出金額の割合

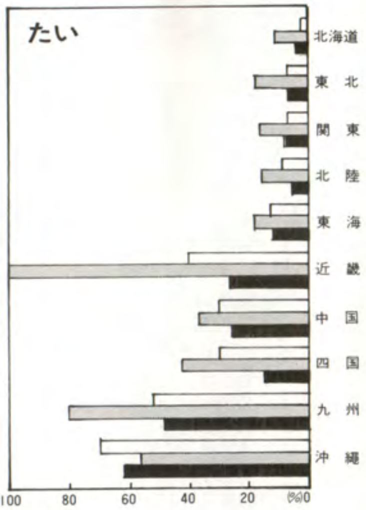
（注）支出金額の割合は昭48年11月、12月、昭49年１月のうち最も高い支出金額を100とした割合です。

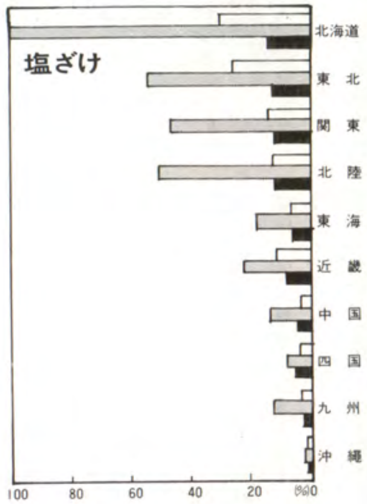
11月
12月
１月

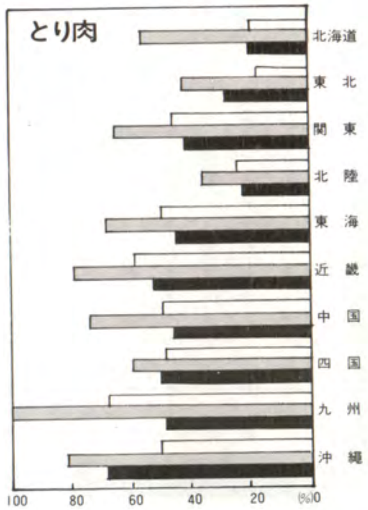










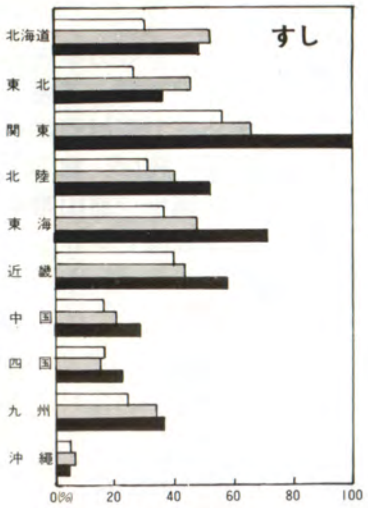


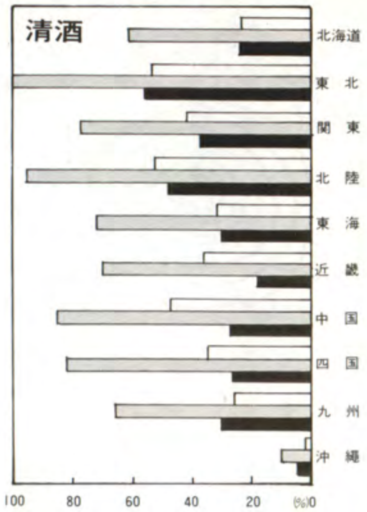
暮からお正月にかけては、クリスマス・忘年会・新年会と飲食する機会が増える一方、お正月用品を暮のうちに購入して新年の用意をすることから家計費も何かとかさむものです。

ところで、お正月を雪の中で迎えるところもあれば暖い陽光のもとで迎えるところもありましょう。また新しい年を祝う慣習としていろいろな行事や食べ物などにその地方特有の親しみの多いものが数多くみられます。

そこでお正月の食品が地方によってどんな特色があるかを家計調査の地方別結果について、四十八年十一月分、十二月分、翌年一月分を対比しながら眺めてみました。

まず鮮魚についてみますと、「たい」は、近畿地方と九州地方などで大変多く買われており、近畿地方では正月料理として特に多く使われているようです。中国地方、四国地方でも前記の地方には及ばないにしても、東海以東の各地方を上回っています。





しかし「たこ」についてみますと北海道を筆頭に東北地方、関東地方で多く買われており、「たい」の場合とは地域的な対照を示しています。

このほか「ぶり」は北陸地方、「まぐろ」は東海地方でそれぞれ最も多く買われており、正月料理に使われる鮮魚にも地方によって大分相違がみられます。

つぎに鮮魚以外の主なものについてみますと、「塩さけ」はお正月には「新巻」として関東以北や北陸地方で多く購入されているようです。

「こんぶ」は北陸地方のほか、近畿以西の各地方でも多く「鶏肉」、「かまぼこ」は東海地方から西の近畿、中国、四国、九州の各地方が東日本の各地方をいずれも上回っています。

「清酒」は、東北、北陸の寒冷な地方において多く買われていますが、このほか中国、四国、九州でもかなり多く購入されています。

また「しょうちゅう」は、九州、沖縄の各地方で多く買われているようです。

「すし」は、関東・東海地方で多く買われており近畿地方も比較的多い方です。

以上いくつかの食品についてみましたが、皆さんの御家庭におけるお正月料理はいかがでしょうか。

富山市の品目別価格（11月）

品　目	銘　柄	単位	価格	10月からみた上昇率（%）	品　目	銘　柄	単位	価格	10月からみた上昇率（%）
食パン	普通品	1 kg	258	0	みそ	並，袋入（1 kg入）	1 袋	237	△ 2.5
即席ラーメン	即席中華めん袋入り	100 g	49	0	砂糖	上白	1 kg	286	10.9
あじ	まあじ丸（長さ約15cm以上）	100 g	114	2.7	レモン	1個約110 g，「サンキスト」	1 kg	342	△11.2
さば	丸（長さ約25cm～35cm）	100 g	27	△10.0	バナナ		1 kg	142	△22.4
いか	するめいか	100 g	75	5.6	ちり紙	白ちり3号，クレープ付	800枚	174	△13.6
牛肉	中	100 g	243	0	せんたく用洗剤	合成洗剤，粒状箱入（2.65kg入）	1 箱	678	0
豚肉	中	100 g	140	△ 2.1	ベニヤ板	ラワン材，普通合板，JAS 2類1等（182cm×91cm×2.7㎜）	1 枚	298	△ 6.9
ハム	プレスハム，上	100 g	163	1.9	ワイシャツ（混紡）	カッター，ポリエステル混紡ブロード80番手，白，普通品	1 枚	2,100	0
牛乳	加工乳（200cc入）月極め	1 本	45	0	せんたく代	綿，ワイシャツ（カッター）配達，料金後払い	1 枚	100	5.3
鶏卵	1個約60 g	1 kg	397	4.7	灯油	白灯油，詰替売り，配達	18 ℓ	640	0
キャベツ		1 kg	62	△32.6	プロパンガス	家庭用，10kg，容器代除く	1 本	1,500	0
ほうれん草		1 kg	139	△30.2	自動車ガソリン	レギュラーガソリン現金売り	1 ℓ	109	10.1
大根		1 kg	53	△54.3	理髪料	大人調髪（洗髪を含む）	1 回	1,475	0
大豆	黄白豆	100 g	24	0	パーマネント代	コールド（セットを含む）	1 回	3,000	0
しょう油	濃口，上・びん詰（2 ℓ入）「キッコーマン印」	1 本	435	0	パンティストッキング	ナイロン100%，プレーン，サイズM，15～20デニール	1 足	200	0

注・生鮮食料品は上・中・下旬の平均価格，その他の品目は中旬の価格です。△印は，マイナスを示しています。

みんなの広場

このページはみなさんのページです。ご意見ご要望をお寄せください。あて先は、富山市新総曲輪1−7富山県県民課広報係です。

イワナの養殖に成功

南端喜代峰さん（43才） 利賀村上百瀬七六一

ニジマスの養殖は、今や各地でさかんに行なわれるようになったが、この程、むずかしいといわれていた「イワナ」の養殖に成功した人が話題になっている。

この人は、利賀村上百瀬の南端喜代峰さんという、スラリとした長身の優男。

「九州でヤマメの養殖に成功したと聞いてヤマメでさえ成功するなら、イワナだって出来んことァないと、ガムシャラに取組みました」と熱っぽく語ってくれた。

もともと南端さんは、山菜加工のナメコ栽培の草分けで、昭和三十八年から手がけているという。この南端さんが、イフナに取りつかれたのが昭和四十六年五月、大阪に住む岡本さんという調理士で、渓流釣マニアが、雪どけの百瀬川に現われ、南端さんの経営する「民宿古井波」にフラリと訪れた日から始まる。

丁度、村の祭礼の日で、百瀬川から釣ってきたイワナや、自家生産のナメコ料理等で歓待、料理にはチョットうるさい岡本さんのこと、話がはずみ、殊にイワナの珍味に花が咲いた。そして「九州の福岡でヤマメの養殖に成功している人がいるが、イワナも養殖できるのではないか」ということになった。それも隣の平村に十年前に舟木さくという人が、イワナの孵化に成功したということもあって、そのキッカケをつくる動機となったことは申すまでもない。

さあ、思い立ったらどうにも止まらない南端さんのこと、早速その舟木さんを訪ねた。「一割位は育つ見込みがある」と舟木さんはいう。一割ではどうも採算がとれない。しかしイワナが頭から離れない。エェイままよ、何はともあれ親イワナを獲らなけりゃどうにもならないと、イケスを作って百瀬川のイワナ獲りに明け暮れた。獲りにとったり、一年に延べ千匹のイワナがイケスで泳ぐことになった。

ところがどっこい、餌を喰ってくれない。試行錯誤して昼夜の苦労。やっと養マス用のペネットという飼料を喰ってくれた。餌付けに成功した、次は採卵である。採卵時期は、利賀の里に雪が降りる十一月。冷たい空に手をかじかせる奥さんも、夫の真剣な姿に深い感動を覚えて、一生懸命の内助。やっとの思いで二万粒の卵を採り、一万粒の孵化に成功した。その喜びは、夫婦は手をとりあって飛び上がった程である。

ところが、その喜びも束の間、この稚魚は病気にかかってバタバタと死に、一週間位で二〇〇匹になってしまった。失望。「断念か」南端さんは苦しんだ。

しかし生来努力家の南端さん。たとえ二〇〇匹でも生きているのだ。成功したのだ。俺の手で産ませたこのイワナを、立派な親にして卵を産ませるまではとガンバッた。

ついに四十七年の暮には五万粒を採卵、この内四万粒が稚魚に変った。研究の結果病気にもならず、すくすくと育った。

ところが今度は水の取り入れに失敗。というのは、ビニールパイプでイケスから一五〇〇㍍離れたところから山水を引いていたのだが、丁度そのあたりに工事があり、パイプに傷がつき穴があいたことを知らなかった。穴があいたパイプには当然空気が入る。この空気がイケスに入り、殆んど全滅してしまった。泣くにも泣けず南端さんは途方にくれた。

それでもあきらめず、もう一度やり直し。四十八年にやっと成功。いまイケスには一年魚、二年魚、三年魚そしてその親たちが、元気よく、真黒になって泳いでいる。

しかし、いままた少し気になることがある。それは、大切に育ててきた親イワナのいくつかに俗称「ワタカブ」という水棲菌がついたのだ。いまこれを除く薬の研究が、目下の難問題であるという。

「イワナは二年魚で出荷、三年魚で採卵する。採卵時にキレイに卵さえ出してやれば生きつづけ、次の年にまた卵を産む。何としてもむずかしいのは、採卵の適期を見つけることだ」と語ってくれた。

「イワナの養殖」。この輝かしい一頁は、富山の新しい歴史であり、その業績は後世長く高く評価されることはもちろんだが、それよりも、今のこの南端さん一家に、このイワナが世の珍味となり、利賀の名産として、奥深い山村の豊かな生活を約束してくれることの方が、何よりも願うことである。

きのう降った初雪の中で、きょうもイワナのイケスで働く南端さんの顔には、自信と幸せを見た。

昭和四十九年十一月二十日記

■SとSGマーク

最近は家庭においてもいろんな製品が利用されるようになり、生活は便利になりましたが、製品の欠陥による事故や苦情も増加しています。

それにともない消費者の安全性を求める声が大きくなってきましたので、国ではすでに他の法律によって規制されている製品を除いた製品全般を対象にした「消費生活用製品安全法」が昭和四八年六月に公布されました。

■国と民間による安全性の確保

消費生活用製品安全法では、国が安全性の規制を行なうと同時に民間の自主的な努力を推進することになっています。

〈国が行なう安全性の確保〉

1 特定製品の指定

消費生活用製品のうち構造、材質、使用状況からみて、一般消費者の生命または身体に対して特に危害をおよぼすおそれが多いと認められる製品を特定製品として指定し、国が定めた安全基準に適合しているかどうかチェックします。

2 Sマークの表示と販売の制限

国の基準に合格した製品にはSマーク（SAFETY の略）が表示されます。Sマークのついていないものは販売できません。

3 危険防止命令

消費者の生命または身体に危害を及ぼすおそれがあると認められる特定製品が販売されたような場合には、製造業者等に対してその製品を回収することなどを命ずることになっています。

4 緊急命令

特定製品以外の製品の欠陥により、一般消費者の生命または身体について、重大な危害が発生し、またはそのおそれがあるときはその製品の製造業者または輸入業者に対して、回収を図ること、その他必要な応急の措置をとることを命ずることになっています。

◎特定製品に指定されている製品

(1)圧力なべ及び圧力がま
(2)乗車用ヘルメット（自動二輪車用）
(3)野球用ヘルメット（硬式野球用）
(4)炭酸飲料を充てんするためのガラスびん

以上の製品については、五十年六月以降Sマークのついていないものは売れないことになります。

〈民間が行なう安全性の確保〉

1 製品安全協会の設立

危険な製品が市場に流通しないよう次のような仕事をするため製品安全協会が昭和四十八年十月一日に設立されました。

製品安全協会の仕事

(1)SGマークの表示

製品安全協会では国の特定製品に関する検査業務を代行するほか、自主的な活動として特定製品以外のものについて、国の安全基準に相当する認定基準をつくり、業者等の申し出によりこの基準に合格した製品にSGマーク（SAFETY GOODSの略）を表示しています。

(2)損害に対する賠償

SGマークのついている製品の欠陥により、消費者の生命または身体に損害が生じた場合は、被害者一人につき最高一、〇〇〇万円の損害賠償をすることになっています。

(3)製品の安全性を確保するための調査、試験

危険な製品が市場に流通しないように監視するための試買テスト、消費者の依頼テスト、その他安全性に関する調査、指導および情報の提供などを行なっています。

◎SGマークの対象となっている製品

(1)乳母車（A形とB形とがあります）
(2)ベビー用歩行器
(3)鉄棒（五十年三月ころから市場に出回る予定）
(4)すべり台（　〃　）
(5)ぶらんこ（　〃　）
(6)住宅用スプリング・マットレス（　〃　）

〈買いものの目安に〉

Sマーク、SGマークは製品の安全を保証します。買いものの目安にしてください。

トピックス

●県政のうごき――――11月1日〜30日

11月7日●第2回花と緑の大会

花と緑の銀行は、県内の地方銀行頭取や支店職員など250人をあつめて第2回「花と緑の大会」をひらき、功労者やポスター入賞者、花壇コンクール入賞校を表彰、このあと記念植樹をした。

11月7日―20日●立山で強化合宿

富山県スキー連盟は、昭和51年2月のおおやま国体に備え、積雪1㍍の雷鳥沢付近で男女22名が参加して強化合宿訓練を行なった。

花壇コンクールで入賞の花壇

11月8日●伏木港大橋の完成

伏木港改良整備事業の一環として昭和48年1月から着工していた小矢部川に架設された伏木港大橋は総事業費7億8,000万円を投じ完成した。

この完成により、伏木港に出入する貨物の輸送の円滑化が期待される。

11月9日●技能日本一に県から2人

昭和49年度の技能日本一に井波町の木彫士、藤井藤吾さん(65)と富山市米田の目立工、市村績さん(43)の2人が選ばれ労働大臣表彰に決まった。

11月11日●1日不況対策相談所

県内中小企業者の経営安定をはかろうと県、商工会議所連絡会、中小企業団体中央会の主催で「不況対策経営相談所」が14日まで、富山、高岡、砺波、新川の4カ所で開かれた。

伏木港大橋の完成で輸送の流れがスムーズに

11月15日●白岩川ダム完成式

県営白岩川ダムは昭和39年から11年の工期と22億6,660万円の事業費で完成した。

総貯水量は220万立方㍍、計画洪水量340㌧をこのダムで240㌧に調整、洪水を防ぐほか渇水期には604ヘクタールのかんがい用水を確保し、立山町には日量2,000㌧の上水道を供給する。

11月18日●伏木港のしゅんせつ再開

伏木港のヘドロしゅんせつ工事は2年半ぶりに再開されることになった。

海洋汚染、水銀禍、しゅんせつ方法やヘドロの捨て場などをめぐって紛きゅうしていたが県漁連から県に対して「海を汚染させない」「汚染があったとき即時作業を中止する」の条件が提示され、これを全面的に県が受け入れたため、決着がついた。

白岩川ダム完成

11月21日●大牧トンネル起工

庄川沿岸道路、156号線改良の大牧トンネルの工事は15億円をかけ、昭和52年3月完成をメドに利賀村新山地内の現場で起工式が行なわれた。

11月25日●5億円募金へ

国立富山医科薬科大学協力会の役員会がひらかれ50年10月の開学をめざし、5億円を目標にしている寄付金募集要綱を承認、さっそく募金協力を求めることになった。

11月25日●保健休養林ほぼ完成

砺波市頼成山周辺で造成を進めている県民公園保健休養林が、水道工事などの一部を除きほぼ完成。砺波市のチューリップフェアにあわせ4月下旬にオープンすることになった。

美しい環境の保健休養林

第3日曜は **家庭の日**

西砺波郡福光町広瀬小学校２年　谷村　悟

●今月のテーマ

〈新しい年を迎え、一年の計画をたてよう〉

テレビ「みんなの県政」あんない

●北日本放送

毎週日曜日、午前９時から30分間

小学生や同好会のコーラスを紹介しながら県の施策をわかりやすく解説します。

●富山テレビ

毎週月曜日から土曜日までの毎日、午後５時45分から５分間

物価情報、お知らせ、県政一口メモ、歳時記などの情報番組です。

新聞「みんなの県政」は４紙に

毎月最終土曜日に北日本、富山、読売、北陸中日の各新聞に県政の最近の動きや、身近なお知らせを載せています。

ご意見ご希望を県民課へどしどしお寄せください。

☎（0764）31－4111（内線 468）

県民のみなさんと県政をむすぶために、県民相談室があります。気軽にご利用下さい。

富山県県民課	〒930	富山市新総曲輪1－7	☎(0764)31－4111
高岡地方県民相談室	〒933	高岡市赤祖父211	☎(0766)21－9411
魚津地方県民相談室	〒937	魚津市新宿10－7	☎(0765)24－5311
砺波地方県民相談室	〒939－13	砺波市幸町1－7	☎(07633)3－5151

県民電話は、みなさんの相談をうけつける電話です。24時間働いています。

●みんなの県政 1月号 №72 ●企画発行 富山県県民生活局県民課 富山市新総曲輪1の7 ☎31－4111 〒930